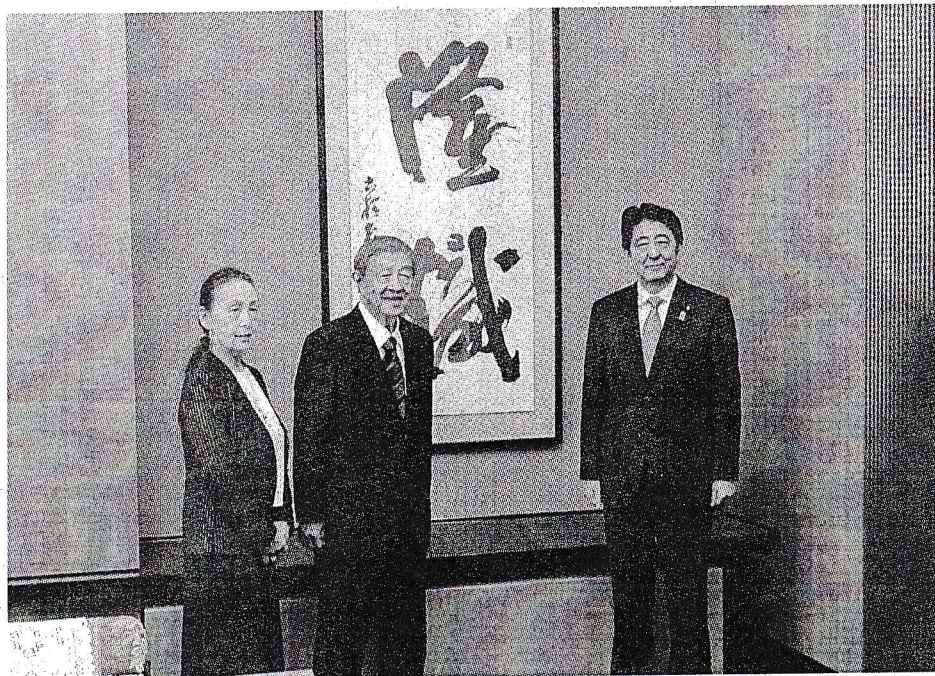


首相官邸に書「隆熾」贈る



官邸に飾られた書の前で記念撮影する田中さんら

喬木村
ふるさと大使

田中節山氏が中学時代の縁で

喬木村伊久間出身の書家で、同村ふるさと大使の田中節山さん（76）
〓 本名・田中裕昭、東京都武蔵野市〓が、首相官邸（千代田区）を訪れ、教え子の安倍晋三首相に自ら手掛けた書「隆熾」を贈った。

寄贈した書は官邸内に飾られている。田中さんは大東文化大を卒業後、成蹊中学・高校の教諭となり、安倍首相の中学3年間は国語を教

日展を通じて官邸から作品寄贈の依頼があり、「頑張っている姿が重なり、応援したい言葉」として作品に「隆熾」の2字を選んだ。隆熾は、中国晋代（西暦300年代）の謝靈運の「山居賦」という詩中の語で、赤々と燃え盛る火のように物事に強い姿勢で対処していくなどを意味する。「今に生きる精いつばいの姿を筆にのせ、文字の中に表現できた」。そんな思いを込めてしたためた。作品は自ら会長を務める書家会に対する思いにも重なり、昨年の第5回書象展に出品されている。昨年、妻・美年さんとともに官邸を訪ね、安倍首相と20分ほど歓談した。作品の構想や出典、意味、作品に込めた思いなどを伝え、田中さんが任命されている書道教育充実推進協議会委員や、日本書道（書き初めを中

心として）ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会委員に触れると強い関心を示したという。

また安倍首相の中学時代に話が及ぶと、「こやかな表情で当時を懐かしむ姿も見られた（田中さん）。対面するのは2006年の第1次安倍内閣発足後、成蹊の関係者らによる激励会以来という「久しぶりの再会だった」が健康を取り戻し、元氣な姿を見ることができてうれしかった」と話した。

隆熾

寄贈した書「隆熾」

喬木村ふるさと大使

田中さんは大東文化大の名譽教授で、全国書美術振興会理事や全日本書道連盟常任理事、書家会会長などを務める。14年には喬木村のふるさと大使に就任した。